説教20220327　ヨハネ9：13-39「わたしがこの世に来たのは」

キリストよお越しください。弟子たちの中に立ち、復活の御姿を現されたように、私たちの内にもお臨み下さい。

私達が日々、新しい命に歩まされるという事は実に喜ばしいことです。朝夕の祈りによって、昨日までの罪を赦されて、朝の光と共に新たな命に更新されてキリストと共に又歩んで行くのです。昨日まで自分を縛り付けていた罪は、キリストによって解き放たれ、私たちは打ち砕かれて目を開かされて、悔い改めのうちに、新たな一歩を踏み出すようになります。罪のない状態でいられるという事は、安息日にいるという事です。いくらハードで辛い仕事に従事しているとしても、そこに罪が無ければ、私たちの心はキリストによって守られ、安らいでいるのです。

そのような新しい歩みの喜びを、前に盲人であったこの人は、実に新鮮に実に生き生きと身をもって証ししてくれました。この人の証しは、私たちキリスト者が日々新しい命に歩むことの模範となることでしょう。

さてこの人はイエス様によって目を開かれて目が見えるようにされました。彼にとってイエス様は恩人であります。彼は自分の目を見えるようにして下さったイエス様に感謝と賛美を捧げないではいられないのです。そうして彼は新たに生きている喜びに満たされているのです。ところが、その彼を迎え入れた当時のユダヤ人の社会というのは悲しいほどに冷たく冷酷でさえありました。

私達は、既存の価値観のもとに一定の秩序を保っている社会に身を置き慣らされていますので、愛がなくなっている社会の冷酷さに気が付かないことがあります。知らず知らずのうちに自らも愛のない行いをしてしまっていることもあります。どうかキリストがこのような罪から私たちを救ってくださいます様に。

素直に考えれば、昨日まで目が見えなかったこの人が、目が見えるようになって喜んで生きているのですから、ただ単純に「君よかったね、本当におめでとう」という祝福の言葉が周りの人から聞かれてもよさそうなものですが、聖書に書いてある通り、実際に起こったことは、それとは全く逆の多くの厳しい出来事でした。まずこの人はファリサイ派の人々の処へ連れて行かれます。連行されたといってもよいでしょう。それはファリサイ派の人々がこの人を取り調べるためであります。目が開かれ喜んでいる人の罪の在りを吟味する為です。この人の目を開けたキリストは有罪か無罪かという事で、ファリサイ派の人々の間で意見は分かれますが、そんなことを論じ合っている場所に連れていかれたこの人はどう思ったでしょうか。私などでしたら、そんな嫌なところにはいたくない、一刻も早く立ち去りたいと思うでしょうが、この人も「あの人は預言者です」と喜んで証ししながらも、そんな嫌悪感を禁じえなかったのではないでしょうか。

辛い出来事は、この人の両親にも及びます。ユダヤ人たちはこの両親を尋問します。「息子さん、目が見えるようになってよかったね」という祝福ではなくて、それとは反対の「この者はあなたたちの息子で、生まれつき目が見えなかったと言うのか。それが、どうして今は目が見えるのか。」という尋問であります。冷静に考えますと、背筋も凍りつくような愛のない発言であります。しかし、この両親もユダヤ人社会の一員ですから、要領は分かっていますから、その尋問に対して「もう大人ですから、本人にお聞きください」と答えて逃げを打つのです。

次にユダヤ人たちはこの人を取り囲んで責め立てます。ユダヤ人たちは言います。「神の前で正直に答えなさい。わたしたちは、あの者が罪ある人間だと知っているのだ。」この時ユダヤ人たちは、先ほどのファリサイ派の人々の様に論じ合ったのではなく、ただ感情に任せて、そして大勢であることに勢いを得て、この人を追い込んでいきました。

彼らは「あの者はお前にどんなことをしたのか。お前の目をどうやって開けたのか。」と再度同じ質問をして彼を追い込んでいきます。その問いに対する彼の答えは実に素直なイエス様への信頼に満ちています。「もうお話ししたのに、聞いてくださいませんでした。なぜまた、聞こうとなさるのですか。あなたがたもあの方の弟子になりたいのですか。」このように彼は心のありのままを語っているのです。それに対しユダヤ人たちは答えます。「お前はあの者の弟子だが、我々はモーセの弟子だ。我々は、神がモーセに語られたことは知っているが、あの者がどこから来たのかは知らない。」このユダヤ人たちの発言も彼らの心の内をありのままに証しています。彼らはモーセの時代に留まることによって我が身を守ろうとしています。だから彼らにとって、新たに登場したイエス様に関わることは危険なことだったのです。

このユダヤ人たちを脅かす危険はもう既に形となっていました。２２節「ユダヤ人たちは既に、イエスをメシアであると公に言い表す者がいれば、会堂から追放すると決めていたのである。」このような決め事が、もうすでになされていたという事です。会堂から追放されるというのは実に恐ろしい決め事であります。この両親を含むユダヤ人たちがこぞって、イエス様に関わらないようにしようとしたのもこの、会堂から追放される、排除されることへの恐れによります。

翻って現代社会に目を向けますと、私たちは今、排除されることへの恐れを懐かないではいられない社会を歩まされています。仲間から排除されるのではないか、仕事から排除されるのではないか、家族から排除されるのではないか、そうして社会全体から排除されて孤独になるのではないかという恐れの中を歩まざるを得ない実情があります。この様な今の私たちが抱える問題に通じる問題を当時のユダヤ人たちも抱えていたのでした。

さてこの前に盲人であった人の話に戻りましょう。彼の受け答えは、実に新鮮であります。未だこの世の恐れを知らない彼は、まさにキリストの新たな命を生きる者として喜びに満ちて自由に受け答えすることが出来るのです。「あの方がどこから来られたか、あなたがたがご存じないとは、実に不思議です。あの方は、わたしの目を開けてくださったのに。神は罪人の言うことはお聞きにならないと、わたしたちは承知しています。しかし、神をあがめ、その御心を行う人の言うことは、お聞きになります。生まれつき目が見えなかった者の目を開けた人がいるということなど、これまで一度も聞いたことがありません。

あの方が神のもとから来られたのでなければ、何もおできにならなかったはずです。」これはなんという素直で喜びに満ちた証でしょうか。心からキリストを信じてキリストに感謝し讃美を捧げる証しであります。そうしてよく聞くと彼はフレッシュマンであるだけに、未だキリストのことを良く知らないという事をも証ししています。私たちはキリストが心から悔い改め打ち砕かれた罪人の罪を赦し、また新たに生かして下さることを知っています。でも「神は罪人の言うことはお聞きにならない」と証しするこの人は、まだ罪を赦して下さるキリストを知っていません。しかし、彼がそれを知るようになることは時間の問題でしょう。まず、キリストを我が救い主として信じることが最初です。そうして目を開かれたものは、ますますキリストのことを深く知りたくなりキリストとの関係性を深められ、キリストの恵みに生きるようになります。

さて、ユダヤ人たちは「お前は全く罪の中に生まれたのに、我々に教えようというのか」と言い返して目論見通りこの人を外に追い出し排除することに成功しました。ところでユダヤ人たちはなぜこんなに熱心にをあげてこの目が見えるようになった人を排除しようとしたのでしょうか。その理由を挙げていきますと、彼らの隣人愛が冷えていたから、彼らは何時自分自身が排除されるかも知れない社会の中で怯えていたから、彼らはそんな社会の中で一人キリストに生かされ生き生きとしている、この人に嫉妬したから、等その理由は様々に説明できることでしょう。そしてその根本的な理由とは、このユダヤ人社会が、会堂からまことの救い主キリストを追い出してしまったという事でありましょう。

フレッシュマンであるこの目が見えるようになった人は、救い主キリストがいない会堂に未練を残すことはありませんでした。彼はさっさとその会堂を喜びに満ちて後にしたことでしょう。

そして彼は、会堂から追い出されたイエス様に、外で出会うことになります。これは当然といえば当然の出来事ですね。追い出された二人が、外で出会うことになったのは必然の成り行きでした。この人の歩みは罪ある所に執着しない、新たな命に生きる歩みでありますから、その人生の瞬間瞬間がイエス様の祝福のうちにあります。彼は言います「主よ、その方はどんな人ですか。その方を信じたいのですが。」イエス様は言われます。「あなたは、もうその人を見ている。あなたと話しているのが、その人だ。」

「わたしがこの世に来たのは、裁くためである。こうして、見えない者は見えるようになり、見える者は見えないようになる。」とイエス様は言われます。この御言葉は有名な「神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。」という御言葉を念頭に置いて語られたのだと思いますが、全く逆のことを言われているようにも取れます。しばし思いを巡らしてみましょう。

御子イエスは、御自身の身を切り裂かれて、私たちが天上に旅立つ時の、新たな命に生きる道を備えて下さいました。私たちはこの地上から排除されるのではなく、天の国に迎え入れられるのだという事をイエス様は私たちに身をもって教えて下さっています。死とは排除されることだと思い込み恐れをなしていることは、一つの罪であります。イエス様はこの罪から私たちを解放する為に、今日敢えて「わたしがこの世に来たのは、裁くためである」と言われたのではないでしょうか。私たちはこの世にいる間に、見えないようになるのか、或いは見えるようになるのかの、日々の分かれ道に立たされます。時に様々な恐れに取り付かれ私たちは見えないようにされてしまいます。ですが、今日のこの人の様にフレッシュマンとして、キリストによって新しい命に生かされ見えるようにされる時、私たちはその恐れを取り除かれ、益々キリストを知り、日々恵みを受けて歩む者へと変えられていくことでしょう。そのような新たな命の道を共に歩んで参りましょう。

お祈りします

天の

あなたは御子をこの地上に遣わし、私たちの目を開いて、日々新たな命に歩む幸いを得させてくださいました。どうかこの恵みを私たちが素直に受け入れ、あなたを賛美することが出来ますように。

今年度が終わろうとし、次週からは新たな年度が始まります。受難の日々にあっても、私たちがあなたから新たに頂く恵みを、素直に受け取っていくことが出来ますよう、私たちの思い、言葉、行いを清め用いて下さい。

御子は私たちを包み込み、新たに生かされる為に来て下さいました。私たちは御子を信じ、排除される恐れに打ち勝っていくことが出来ますように。地上では排除にまつわる様々な争い事が起こり、私たちは疲れ果てています。どうかこのような時にこそ私たちが御子が下さる日々の恵みに気付き、それを喜び受入れ、自らも恵みの業を行う者へと変えて下さいます様に。

父と聖霊と共に一体